

今週（1月4日から1月12日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

先週および今週のインターバンク市場は、年末を通過した事で取引を再開した先も多く、ビッドサイドからは積極的な資金調達意欲が見られた。

無担保コールO/N物の出合い水準は、12月末にレートが低下した影響もあり、今年最初の営業日となった4日(木)は、改めてレート水準を探る展開となる中、▲0.020%台での取引が中心となった。その後は日を追う毎に上昇し、11日(木)には▲0.014%まで上昇し、12日(金)は今積み期間最後の3日積みとなった事もあり、上昇幅は限られたものの全体的に幾分上昇する展開となった。

ターム物については、1W～1M物を中心に▲0.025～▲0.005%近辺の水準で引き合いが見られた。

日銀当座預金残高は、4日(木)に544兆円程度で始まったものの、9日(火)の法人税・年金保険料揚げ、11日(木)の10年債発行などにより539兆円台まで減少した。

●レポ市場

GC T/N物は、4日(木)、5日(金)はオファーサイドの資金調達姿勢が強く、▲0.105～▲0.090%のレンジで安定的に推移した。週が替わり、今週前半はオファーサイドの資金調達姿勢が弱まった事でレート目線が低下し、9日(火)、10日(水)は、▲0.160～▲0.100%レンジでの取引となった。しかし、入札を経て、オファーサイドが徐々に勢いを取り戻し、週後半にはレート目線が再び上昇した。

SCは、カレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

先週および今週の短国市場は、全ゾーンで概ね堅調に推移した。

入札案件については、先週は5日に3M物、今週は9日に6M物、12日に3M物の入札が実施され、いずれも強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。

●CP市場

先週および今週のCP市場は、建設、卸売、その他金融など幅広い銘柄で発行が見られた。

市場残高は、12月末に24兆円台まで低下したが、9日(火)以降は27兆円台を回復し、引き続き高水準で推移している。

発行レートについて、日銀適格担保銘柄の3M以内の案件では、0%近辺での出合いが中心となった一方で、ロングターム物の案件では政策変更への警戒感からか、レート水準にばらつきが見られた。また、非適格担保銘柄や、一部のノンバンク銘柄では、投資家目線の上昇が見られた。

CP等買入オペは、11日に事前予定通り4,000億円でオファーされ、結果は、按分レート+0.003%、平均落札レート+0.018%と、前回(按分レート+0.005%、平均落札レート+0.023%)比で、按分レート、平均落札レート共に低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（％）	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・％)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・％)	日銀当座預金残高 (億円)
1/1（月）						
1/2（火）						
1/3（水）						
1/4（木）	33,288.29	0.615	143.32	△ 0.021	△ 0.105	5,438,500
1/5（金）	33,377.42	0.600	144.89	△ 0.018	△ 0.096	5,445,400
1/8（月）						
1/9（火）	33,763.18	0.580	143.92	△ 0.017	△ 0.097	5,418,700
1/10（水）	34,441.72	0.615	144.63	△ 0.016	△ 0.146	5,429,900
1/11（木）	35,049.86	0.600	145.53	△ 0.014	△ 0.107	5,394,500
1/12（金）	35,577.11	0.585	145.23	△ 0.010	△ 0.103	5,388,000

来週（1月15日から1月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/15 (月)	12月のマネースtock(日銀 8:50) 11月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)				New York祝日(Martin L.King Jr.'s Day)
1/16 (火)	12月の企業物価指数(日銀 8:50)	5Y 25,000億円 1/17発行	交付税借入 13,000億円 1/25借入		
1/17 (水)					12月の米小売売上高 11月の米企業在庫 米ページブック 12月のユーロ圏消費者物価指数改定値 12月の英消費者物価指数
1/18 (木)	11月の機械受注統計(内閣府 8:50)	TB1Y 35,000億円 1/22発行	20Y 10,000億円 1/19発行		12月の米住宅着工件数 12月の米鉱工業生産・設備稼働率
1/19 (金)	12月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 11月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 11月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 56,000億円 1/22発行			12月の米中古住宅販売 1月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/15 (月)	1,900	▲ 14,900	▲ 13,000	CP買入 国債補完	▲ 200 35,300		35,100	22,100	TB3M発行▲56,000 償還56,000 30Y発行▲9,000 個人向け3・5・10Y発行▲2,900 償還2,700
1/16 (火)	1,500	▲ 1,500	0	CP買入		4,000	4,000	4,000	
1/17 (水)	1,000	▲ 27,000	▲ 26,000				0	▲ 26,000	5Y発行▲25,000
1/18 (木)	2,000	1,000	3,000				0	3,000	交付税借入▲13,000 期日13,000
1/19 (金)	2,500	▲ 9,000	▲ 6,500				0	▲ 6,500	20Y発行▲12,000
週 間 合 計	8,900	▲ 51,400	▲ 42,500	—	35,100	4,000	39,100	▲ 3,400	

1/15は日銀予想、1/16以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、15日(月)が積み最終日となるため、レートは引き続き高水準での推移が見込まれる。16日(火)以降は、新しい積み期間となるためレート動向が注目される。債券レボ GC T/N物は、新しい積み期間となるため改めてレート水準を探る展開が想定されるが、今週比で概ね横ばい圏となる▲0.13～▲0.09%程度のレンジでの推移が予想される。短国市場は、18日に1Y物、19日に3M物の入札実施が予定されている。また、16日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、期間の短い物が中心となる中、発行量がどの程度膨らむか注目される。

主要なイベントは、国内では16日に12月の企業物価指数、18日に11月の機械受注統計、19日に12月の全国消費者物価指数(CPI)、海外では、17日に12月の米小売売上高、12月のユーロ圏消費者物価指数改定値、12月の英消費者物価指数などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入